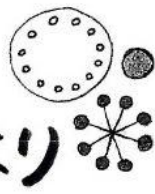


# ゆりかご えんだより



3期のねらい(10~12月)

手を使ってつくりだす活動を中心に園生活を豊かにしよう

2021・12・1

先月、子どもたちがお弁当を食べる機会がありました。ある子のお弁当箱のふたについているディズニープリンセスのキャラクターを見ながら、周りの子、数人とたいそう盛り上がりました。それぞれが

「私はラプンゼル!」「ボクはオーロラ姫!」「ベルが好き~」と好きなキャラクターをあげていったのです。そんな中、Sちゃんは覗き込みながら「どれにしようかなあ」と迷っている様子だったので、まだ誰も選んでいない「シンデレラは?」と聞いてみました。すると、「そんなのヤダー!」とプンプン怒りだしたのです。私はどうしてそんなに怒るのかわからなかったのですが、続いたことばに思わず笑ってしまいました。Sちゃんには「シンデレラは?」が「死んでる人は?」に聞こえたりしいのです。勘違いがわかり、周りにいた子も含め大笑いしました。そして、その後コマを回してあそんだ時も同じような勘違いがありました。Sちゃんが食いするよう回るコマを見ていたので「Sちゃん回るモ)好きだもんね」というと、「違う~好きじゃない!」とまたプンプン。「え、扇風機とか回るもの好きでしょう」というと、「え、マワルモ)?ワルモ)(悪者)かと思った~」と…。これもまた大笑いとなりました。



マスク着用の保育が始まって、1年10ヶ月になります。コロナ禍での大人のマスク着用が子どもたちの心の成長にどんな影響を及ぼすのか、保育現場でも心配する声があります。2020年11月の園だよりに東京大学大学院教授のコメントを紹介しましたが、表情やまなざし、声に含まれる感情的な調子で子どもたちは大人の思いを感じとるようです。先の聞き間違いのエピソード…。もしかしたらマスクのせいで大人のことばをうまく聞きとれなかったのか、と思います。ただ、ことばを交わすことは信頼関係を築き認め合うことにもつながります。一方向とまらない大人と子どものやりとりは大切なことと認識しています。誤解や勘違いなどが生じることもあるかもしれませんが、お互いに思いを尊重しつつも、笑い合えるそんな心のゆとりも大切だなあと思ったエピソードでした。



ちなみに、Sちゃんは2歳児クラスの3歳です。少し前のSちゃんは、自分の思いをしっかり出せましたが、相手の思いを受け入れ納得するにはちょっと時間がかかっていたように思います。勘違いを笑えるほどに成長したSちゃん。そしてその笑いにつられる周りの子たち。なんだかとても幸せな気分になりました。